

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23390526

研究課題名(和文) 地域終末期ケア体制の充実に向けた看護師主導型の多職種連携ツールの作成と効果の検証

研究課題名(英文) Development and effectiveness of a interprofessional-teamworking program promoting community end-of-life care

研究代表者

福井 小紀子 (Fukui, Sakiko)

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40336532

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円、(間接経費) 4,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域終末期ケア体制の充実に向けた多職種連携測定ツールとして、在宅医療介護従事者を対象とした「顔の見える関係構築」、「連携意識」、「連携行動」の3段階的に分けて、各連携力を捉えるスケールを作成し調査協力3市(魚沼、盛岡、別府)の在宅医療介護職1400名を対象にその信頼性・妥当性を確認する調査を実施し、3スケールを開発した。

3スケールで測定する連携力に関連する要因を分析し、在宅医療介護従事者の連携レベルを高めるのは、連携会議や研修会参加経験、地域の規模を数万人以内と制限した単位で連携強化をはかること及び看取りや医療ニーズの高い在宅療養者を支援するチーム連携実績を積むことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The present 3-years study conducted a survey to investigate the situation of teamwork for 1400 healthcare professionals in 3 cities, and developed 3 scales to measure the level of teamwork, which are divided into three levels "linkage", "coordination", and "full integration", by confirming the validity and reliability.

The analyses clarified that the factors to strengthen the level of teamwork were: experience to participate inter-professional meetings and end-of-life care trainings; to limit the community scale within several ten thousands, and to accumulate teamwork experiences to support patients who need end-of-life care and/or intensive medical control.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：在宅看護 地域包括ケア 多職種連携 在宅終末期ケア 訪問看護

1. 研究開始当初の背景

がん以外の終末期ケアは十分に進んでおらずに研究知見も少ないという世界的な状況、超高齢化社会を迎え大きな医療介護提供体制の変革が必要とされるわが国の政策的動向、及びこれまでの研究過程で見えてきた看護師間の連携だけでなく地域の多職種連携の重要性という課題認識があった。

このため、わが国の地域医療体制、社会保障制度、及び文化的背景に適した「地域終末期ケア体制の充実を目指した看護師主導型の多職種連携ツール」を作成することが重要と考え、本研究を実施することとした。

2. 研究の目的

本研究では、国内3地域（盛岡市、別府市、須坂市）における医療福祉資源の現況調査と実践家に対するフォーカスグループインタビュー、上記3地域における在宅における医療介護職（在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職）に対する在宅看取り時の連携の実態を尋ねる質問紙調査、およびこの3地域にて在宅終末期ケアを受けた遺族に対する各職種へのケア評価を尋ねる質問紙調査を実施する。その上で～の結果を基に、質の高い地域終末期ケア提供に必要な多職種連携要素を抽出する。そして、これら要素を盛り込んだ“地域を単位とした終末期ケア体制の充実のための看護師主導型の多職種連携ツール”を作成し、連携力を高める要因を明らかにする。

3. 研究の方法

初年度には、関連テーマの系統的文献、先進国の地域終末期ケア指針の運用状況と連携実態調査、国内3地域における医療介護資源の現況調査と当該地域の医療福

祉職に対するフォーカスグループインタビューを実施する。2年目には、3地域における医療介護職に対する在宅看取り時の連携の実態調査、その地域で在宅終末期ケアを受けた遺族に対する各職種へのケア評価を尋ねる質問紙調査を実施する。最終年度には、1～2年目の成果を基に、地域を単位とした質の高い終末期ケア提供に必要な多職種連携要素を抽出し、多職種連携力を測る多職種連携ツールを信頼性・妥当性と確認した上で3段階（顔の見える関係構築レベル、連携意識レベル、連携行動レベル）に分けて開発するとともに、連携力を高める要因を明らかにする。

4. 研究成果

3年計画で行う研究全体の目的である「地域終末期ケア体制の充実に向けた多職種連携測定ツールの作成と検証」を遂行するために、初年度には、松戸市の多職種300名を対象に、終末期ケアにおける連携の実態把握のための質問紙調査を行い、終末期ケア連携に関して職種間で担う役割に違いがあることを明らかにした。医療面を支えるケア提供とその連携は主として医師と看護師が担う一方で、生活面を支えるケア提供とその連携は看護師とケアマネジャーが担っていることを明らかにした。

2年目には、第二段階として、初年度の結果と文献レビューの結果、および研究協力地域である3地域（人口30万都市の岩手県盛岡市、人口12万都市の大分県別府市、人口4万都市の新潟県魚沼市）の地域で多職種連携推進役との意見交換を通して、地域終末期ケア提供に関する顔の見える連携構築、連携意識、および連携行動を把握するための評価ツールの開発を行った。そして、これら3地域を対象として、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー、介

護職、薬剤師の5職種1400例を対象に、連携の実態（顔の見える連携構築力、連携意識力、および連携行動力）を捉えるための連携測定ツールを開発するとともに、これらの職種間や地域間の差異や特徴を把握するために質問紙調査を実施した。その結果、699例から回答が得られ、1)地域の人口規模が小さいほど顔の見える連携構築の得点が高いこと、2)終末期ケア経験、終末期研修受講経験、および終末期ケア会議に参加をしている程、連携意識と連携行動の得点が高まること、および3)職種によって連携行動の内容が異なること（医師は情報発信とチーム管理をチーム形成の初期段階で行う、日々の具体的な多職種連携のやり取りや情報発信・収集はケアマネジャーが中心となって行う、疾患等の医療の今後の変化を見据えた予測的判断の共有や平時および急変時の24時間連携体制の具体化を訪問看護師が行う、介護職は終末期ケア経験は半数程度しかないが連携参加意欲は高いこと、薬剤師は経験が少なく今後の連携参加が課題であること等）の特徴が示された。

3年目には、上記3ツールを用いて、同じ療養者の遺族、およびその療養者と家族を支えるためにチームを組んだ在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職（60ケース×5種）を対象に、職種間では各職種への相互評価、遺族へは各職種の評価とケア評価について尋ねる把握する調査を実施した。その結果、職種間の相互評価については、A)3職種間とも高い群、B)3職種とも低い群、C)医師-ケアマネ間が低い群、D)他に4分類された。患者に苦痛症状が無く、医師の顔の見える関係力が高く、3職種とも看取り経験が豊富であると、3職種とも相互の連携評価が高く（A群）、患者に苦痛症状がある場合、医師とケアマネ間の連携評価は低くなるが、看護師が高い連携行動力

を持ってその2者を繋いでいると考えられた（C群）。これら2群が、目指すべき連携モデルになりうると考えられた。遺族による評価については、チーム満足度や連携評価は概ね高かったが、死が近づいたときの説明の評価は低めの割合が高かった。遺族が最も頼りにしている職種は、医師(40%)または看護師(45%)が高かった。開始時に介護スキルへの不安の大きい遺族は、看護師を頼りにし、医師を頼りにしていた遺族は後悔が少なかった。このことから、終末期患者を支える連携の実態として、医療と介護両面を含めたケア提供は、看護師が中心的な役割を果たしている状況が示唆された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計35件)

Fukui S, Yoshiuchi K, Fujita J, Ikezaki S. Determinants of financial performance of home-visit nursing agencies in Japan. BMC Health Services Research. 2014 Jan 9;14:11. Fukui S, Fujita J, Yoshiuchi K. The associations with the Japanese people's preference for place of end-of-life care and their self-perceived burden/concern to family members. J Palliat Care. 2013;29(1): 22-28.

Ishikawa K, Fukui S, Saito T, et al. Family preference for place of death mediates the relationship between patient preference and actual place of death: A nationwide retrospective cross-sectional study. PLOS ONE. 8 e56848. 2013

福井小紀子. 「在宅医療介護従事者における顔の見える関係評価尺度」の適

- 切性の検討 . 日本在宅医学会誌 . in press
- 福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子、秋山正子 . 都市部公営団地に在住する健康相談未利用者における健康相談の必要性に関する認識とその関連要因の検討 . 日本公衆衛生学会誌 . 60(12) . 745-753 . 2013 .
- 福井小紀子 . 訪問看護事業所の黒字化のための経営指標の提案 . 社会保険旬報 . 2545 . 22-29 . 2013 .
- Fukui S , Yoshiuchi K . Associations with the Japanese population 's preferences for the place of end-of-life care and their need for receiving healthcare services . Journal of Palliative Medicine . J Palliat Med . 2012;15(10):1106-12 .
- Fukui S , Yoshiuchi K , Fujita J , Sawai M , Watanabe M . Japanese people 's preference for place of end-of-life care and death: a population-based nationwide survey . Journal of Pain and Symptom Management . 2011;42(6):882-92 .
- Fukui S , Fujita J , Tsujimura M , et al . Predictors of Home Death of Home Palliative Cancer Care Patients: Focusing on the Role of Hospital and Community Nurses around the Time of Discharge to Home Palliative Care . Int J Nurs Stud . 2011;48(11):1393-400 .
- Fukui S , Fujita J , Tsujimura M , et al . Late referrals to home palliative care service affecting death at home in advanced cancer patients in Japan: A nationwide survey . Annals of Oncology . 2011;22(9):2113-20 .
- Fukui S , Ogawa K , Yamagishi A : Effectiveness of communication skills training of nurses on the quality of life and satisfaction with healthcare professionals among newly diagnosed cancer patients: a preliminary study . Psycho-Oncology . 2011;20(12):1285-91 .
- 福井小紀子、藤田淳子、池崎澄江、清水準一、津野陽子、渡辺美奈子 : 事業収支を黒字化する経営戦略 第5回 : 「在宅看取り」を支える訪問看護の経営戦略 . 訪問看護と介護 16(12) : 1033-1037 . 2011
- 津野陽子、池崎澄江、清水準一、藤田淳子、渡辺美奈子、福井小紀子 : 事業収支を黒字化する経営戦略 第4回 : 「ケアの質担保」と「黒字化」は両立するか? 訪問看護と介護 16(11) : 948-951 . 2011
- 清水準一、池崎澄江、津野陽子、渡辺美奈子、藤田淳子、福井小紀子 : 事業収支を黒字化する経営戦略 第3回 : 安定した「黒字」経営を継続するには? 訪問看護と介護 16(10) : 862-866 . 2011
- 池崎澄江、清水準一、津野陽子、藤田淳子、渡辺美奈子、福井小紀子 : 事業収支を黒字化する経営戦略 第2回 : 「経営管理の実態」と「事業所特性」と事業収支(黒字/赤字)との関連 . 訪問看護と介護 16(9) : 772-775 . 2011
- 藤田淳子、渡辺美奈子、清水準一、池崎澄江、津野陽子、福井小紀子 : 利用者の「看護的負担」と経営状態 . 訪問看護と介護 16(8) : 675-679 . 2011 連載1回
- 福井小紀子 : 訪問看護推進のために今、現場が求めていること : 全国訪問看護事業所への調査結果の分析から . 訪問看護と介護 16(7) : 570-580 . 2011
- 福井小紀子 : 緩和ケアに関連する介護保険制度上の諸課題 . 緩和ケア .

〔学会発表〕(計 17 件)

河野潤子、石川孝子、小林麻奈、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第 1 報：看護的負荷 11 項目の有用性の検証．第 18 回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

小林麻奈、石川孝子、河野潤子、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第 2 報：同一法人 5 事業所の訪問看護利用者における看護的負荷レベルと報酬との関連．第 18 回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

石川孝子、小林麻奈、河野潤子、福井小紀子．看護的負荷の高い訪問看護利用者の特徴第 3 報：利用保険別時間当たり報酬額の関連要因．第 18 回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

川野英子、福井小紀子、大園康文、藤田淳子．がん終末期の在宅療養者が在宅死となる要因の抽出：決定木分析から．第 18 回日本在宅ケア学会学術集会．東京．2014.3.15-16.

福井小紀子、後藤友美、後藤友子、井上多鶴子．医療と介護の連携促進に向けた政策的動向と各地域の取り組み．第 18 回日本在宅ケア学会学術集会．交流集会．東京．2014.3.15-16.

福井小紀子、藤田淳子、清水準一．訪問看護事業所の黒字化のための経営指標：全国調査による収支比率との関連分析の結果から．第 33 回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

山本則子、永田智子、成瀬昇、福井小紀子他．在宅終末期ケア教育に関する全国看護系大学実態調査：シラバスからの検討．第 33 回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

山本則子、永田智子、成瀬昇、福井小紀子他．超高齢社会を踏まえた医療体制の見直しに対応する看護共育の在り方．交流集会．第 33 回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

藤田淳子、福井小紀子他．在宅ケアにおける多職種連携行動を評価するツールの作成．第 33 回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

大園康文、福井小紀子、川野英子．終末期がん患者の在宅療養継続を促進・阻害する出来事が死亡場所に与えた影響 - 経時的なパターンの分類化．第 33 回日本看護科学学会．大阪．2013.12.6-7.

Sakiko Fukui, Junko Fujita. Japanese people 's preference for place of end-of-life care and the association with their concern for family caregiver burden: A cross-sectional nationwide survey. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) conference 2013. Edinburg. 13-14th March 2013.

Junko Fujita, Sakiko Fukui. Correlates of home care nurse collaboration with care managers/home helpers for elderly in terminal stage. The International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR) conference 2013. Edinburg. 13-14th March 2013.

藤田淳子、池崎澄江、福井小紀子、中里和弘、川越正平．多職種連携の行動を評価する指標の作成：連携行動の自己評価．第 15 回日本在宅医学会大会．松山．2013.3.14-15.

福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子．高齢化の進んだ都市部公営団地住民の健康支援のあり方(第 2 報)

第 71 回日本公衆衛生学会総会 . Oct. 2012

乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子、福井小紀子 . 高齢化の進んだ都市部公営団地住民の健康支援のあり方 (第 1 報)

第 71 回日本公衆衛生学会総会 . Oct. 2012

福井小紀子、乙黒千鶴、石川孝子、藤田淳子 . 高齢化の進んだ公営団地住民の健康相談の場のニーズと関連要因
高齢化社会に向けた健康相談支援体制のあり方の検討 (第 2 報) . 日本地域看護学会 第 15 回学術集会 . June 2012

石川孝子、乙黒千鶴、藤田淳子、福井小紀子 . 地域の健康相談の場の認識と利用者・未利用者相談ニーズの比較
高齢化社会に向けた健康相談支援体制のあり方の検討 (第 1 報) . 日本地域看護学会 第 15 回学術集会 . June 2012

〔図書〕(計 4 件)

福井小紀子、吉内一浩、黒木百合子 . 看護師のための マナー・言葉かけ・接し方ハンドブック (ナースのためのハンドブック) . ナツメ社 . 2013 年

秋山正子、太田秀樹、高橋美保、平原優美、福井小紀子 . 暮らしの健康手帳 . 健康と良い友達社 . 2012 年

福井小紀子 . 在宅看護学 (石垣和子監修) . 第 9 章: 諸外国の在宅看護 . P337-343 . 南江堂 . 2011 年

福井小紀子 . 臨床精神腫瘍学 (内富庸介監修) . 基本編第 2 章: 検診と心理的問題 . P40-42 . 医学書院 . 2011 年

〔その他〕(計 4 件)

招聘【公開講座】福井小紀子 . エンド・オブ・ライブケアを地域で効果的に進めるための他職種連携のあり方 . 第 18 回日本在宅ケア学会学術集会 . 東京 . 2014.3.15-16 .

招聘【シンポジウム】福井小紀子 シンポジウム: がん在宅の未来 ~ 地域で支えるためにできること . 第 16 回日本在宅医学会大会 . 浜松 . 2014.3.1-2 .

【学術講演】福井小紀子 「がん医療の動向と対策」福岡県看護協会 . がん看護研修会 Nov. 2011

【シンポジウム】福井小紀子 分科会 「看護職が主導・開拓する在宅ケア: 海外の在宅ケアの状況と日本の在宅ケアの展望」 看護サミット '11 Nov. 2011

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

福井小紀子 (FUKUI, Sakiko)
日本赤十字看護大学・地域看護学・教授
研究者番号: 4 0 3 3 6 5 3 2

(2) 研究分担者

藤田淳子 (FUJITA, Junko)
日本赤十字看護大学・地域看護学・講師
研究者番号: 1 0 5 5 3 5 6 3

辻村真由子 (TUJIMURA, Mayuko)
千葉大学・看護学研究科・講師
研究者番号: 3 0 5 1 4 2 5 2

乙黒千鶴 (Otoguro, Chizuru)
日本赤十字看護大学・地域看護学・助教
研究者番号: 5 0 6 1 3 9 3 1

池崎澄江 (IKEZAKI, Sumie)
千葉大学・看護学研究科・講師
研究者番号: 6 0 4 4 5 2 0 2